

エピソード

9月の中旬から降園前に時間があるときは『しりとり』をしていて、一日2,3人ずつ進んでいます。最初は自分の順番でないときも、思いつくと答えを言うことも多かったですが「友達が考えているときは答えじゃなくてヒントを言うようにしよう」と伝え、友達がわかるようにヒントを出すことができるようになってきて、順番がきた子は友達のヒントを聞いて答える姿も増えています。

① Aちゃん「『わに』やったから『にわとり』!次は『り』やで」Bくん「『り』か…」と考えていると、友達がヒントを出し始めます。「果物とか」「『りんご』やろ。もう出てるからダメやで」「茶色の動物とか」「それ(りす)ももう言ったで」とヒントを出す友達も考え出します。Cくんが「ほら、みんなの椅子の後ろにあるやん」と言うと、みんなが自分の椅子の後ろを見ました。「ほんまや。あるある」「背中に背負うやつ」とみんなが『り』のつくものを思い浮かべていると、Bくんもちらっと自分や隣の子の椅子の後ろを見て気付いたようでしたが、口を開かず、答えようとしませんでした。降園時間も迫ってきたので、①「考えてきて明日言う?」とBくん尋ねると、Bくんは「うん」と言ったので、その日はそこまでにしました。翌日、①「Bくんの『り』からだったけど、何か思いついた?」と聞くと、Bくんは「うん!『りっぴ』!」と家で考えてきた言葉を言い、しりとりが進んでいきました。

② Dくんの順番が来て「『とまと』」と答えました。「じゃあEちゃんは『と』から始まる言葉だね。何かあるかな」と言うと、Eちゃんも考え始めました。すると、Eちゃんの次の順番のFくんが「『ち』で始まる言葉が言いたいから、『ち』にしてほしい」とEちゃんに言い、Eちゃんは少し戸惑ったような表情をしました。①「Eちゃんは『と』で始まって『ち』で終わる言葉を探してこと?難しいね」と言うと、Eちゃんは頷き、みんなも「そんなある?」「難しいな」とヒントを出す声が止まります。そのときDくんが「あるよ。何かつくるときに木とかたたくやつ」とヒントを出しました。ヒントを聞いたEちゃんは笑顔になり、①「Eちゃんわかった?」と尋ねると頷いて「『とんかち』」と答えました。①「『とんかち』は『と』で始まって『ち』で終わるね。すごい!」と言うと、みんなも「ほんまや。すごい!」と感心していました。Fくんは希望通りの文字が回ってきて、嬉しそうにすぐに「『ちえんそー』」と答え、「それが言いたかったんや!」とみんな盛り上がっていました。

子どもの育ちや学び

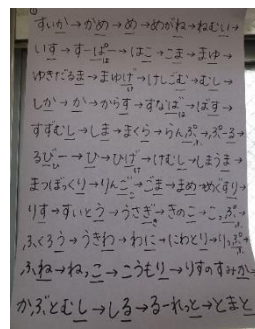
り...り...
『ヒントはわかったけど自分で考えた言葉が言いたいな』
(自分で言いたい)

にわとり!

『と』で始まって『ち』で終わる言葉あるかな
(友達の思いに応えたい)

いい言葉があったよ!
(ひらめき)

『ち』のつく言葉が言いたい
(願望)



- ・最初の文字からつながる言葉を考えたり探したりして、答える。
- ・答えを言わず、言葉を思い浮かべられるようなヒントを考えたり、伝えるように表現したりする。
- ・友達のヒントを聞いて、ヒントが表す言葉を見つけ出す。
- ・つながる言葉が増えていく中で、出ていない言葉を探したり、自分で考えた言葉を言いたいという気持ちが高まる。
- ・ヒントから同じ言葉を想像し、思いついたことを言葉にせず、友達と共有する。

保育者の思い

- ・しりとりを通して言葉や文字への興味につながったらいいな、と思っています。最初は思いつくことが楽しいようですがすぐに思いついた言葉を言うていましたが、ヒントを出す面白さを感じ、友達がわかるようにヒントを伝えられるようになってきています。
- ・今まで出てきた言葉がわかるように画用紙に書いていつでも見られるようにしたり、五十音がかかれた絵本を置いたりして、みんなでしりとりをする時間以外でも考えたり言葉に触れたりできるようにしています。
- ・継続してしりとりをすることで、ヒントの出し方を工夫したり、自分で考えた言葉を言いたいと探したり、友達が求める文字につながる言葉を考えたりするなど、言葉をつなげていく以外の部分にも目的や面白さを感じているな、と思いました。

家庭だったら

「しりとり」で答えを言わずにその言葉を説明しようとする力もついてきています。一緒に「しりとり」をしてヒントを出してみてもらってください。子ども達が出すヒントは、子どもならではの視点や表現でとても面白いですよ。